

舞鶴市市史編さん委員会近世部会（第1回） 議事要録

- 日 時：令和6年9月7日（土）14時～16時
- 場 所：舞鶴西総合会館2階201会議室（市外委員3名はオンラインによる出席）
- 出席者：廣瀬部会長、東副部会長、吉野委員、稲穂委員
- 舞鶴市：生涯学習部文化振興課（三方次長、松本担当課長、田中係長、石原、吉岡）

《次第》

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 部会委員紹介
- 4 協議事項
 - (1)部会長及び副部会長（編集責任者）の選出について
 - (2)市史刊行に向けたロードマップについて
 - (3)章立て等刊行物の構成について
 - (4)執筆者等の推薦について
 - (5)その他
 - ①執筆要項について
 - ②報酬等取扱基準について
 - ③その他
- 5 今後の予定等
- 6 閉会

《概要》

【協議事項】

- (1)部会長及び副部会長（編集責任者）の選出について
 - ◎吉野委員から、部会長に廣瀬委員を推薦する旨の発言があり、他に意見がなく全員の賛成により、部会長に廣瀬委員を選出した。その後、廣瀬部会長の指名により、副部会長（編集責任者）に東委員を選出した。
- (2)市史刊行に向けたロードマップについて
 - 〔事務局より、資料2・刊行に向けたロードマップについて説明。〕
 - ・城と城下町グループとは、別に動くのか、どういうすみ分けをするのか。
 - 事務局／時代的にもかぶってくる部分があり、すみ分けをどうしていくかは、次の協議事項(3)で、城と城下町グループの委員、執筆者も含めご意見をいただきたい。
- (3)章立て等刊行物の構成について
 - 〔事務局より、資料5・舞鶴市史通史編（上）目次、資料3・新修・舞鶴市史執筆要項、資料6・京丹後市史抜粋について説明。〕
 - ・近世の時代的な区分は、以前の委員会でも、上限は細川幽斎の丹後入国からが近世の始まりで、下限は幕末明治維新という形で、既刊の舞鶴市史と同じ分け方をすると決めた。

- ・執筆要項については、他の部会の方ともすり合わせながら、決めていくのか。
 - 事務局／執筆要項については、市史編さん委員会の先生方からご意見をいただき整理したもので、この要項により各部会で市史を編さんしていただきたい。
- ・14番の執筆者名については、どこを誰が責任を持つのかという話だが、まとめて書くのか、章ごとに明記するのか。
 - 事務局／最近の市史では、章あるいはその下の節のところまで執筆者名を入れている、中の節を細かく分けている場合にはその節の中に入れていくように考えている。
- ・記述の基本(7)資料編の見開きで1テーマとする書き方について、例えば百姓一揆を一つの題として、見開きで全部書き切るという書き方か。
 - 事務局／あくまでも原則見開き1テーマということであり、その書きぶり等については、学校でも使えるように、ビジュアルでわかりやすい、いわゆる写真と翻刻だけでなく、解説もしっかり書くということ。宮津市史のように資料が並ぶというものを考えているわけではなく、例えば百姓一揆の場合、これを扱う原文書の写真、この翻刻、解説がその中で収まる、一揆そのものが全部書けるわけではないが、できるだけ簡潔な形で、これに係る多くの資料は別途Webで紹介するという形にしたい。
- ・京丹後市史の場合、歴史を深く知りたい人にとってはちょっと弱い部分があると聞く。一方で、学校とか公民館の歴史の勉強には使いやすい。私としてはたくさんの人に見てもらえる資料編、と同時に宮津市史みたいな資料がこの資料編の背後にあり、何らかの形で刊行までいかななくても見れるようになればと感じた。本文編と、見開きカラーの資料編と、その背景にあるたくさんの原資料、3種類が平行している感じだ。
- ・基本は読みやすい、読もうと思ってもらえる市史というイメージ。現代語訳にするぐらいまで市民に寄らないといけませんが、見開き2ページで収まるのか。大きなテーマになってくると、4ページとか6ページぐらいに膨らむテーマがあってもよいと個人的には考える。短いところにその情報を凝縮することは難しいが、そこが腕の見せ所と考えている。
- ・例えば何々家文書というものが一つの見開きになるイメージなのか。あるいはその歴史上のイベントなどトピック的なものが資料を使いながら見開きとなるのか。
 - 事務局／市民が本を見たときに、これ面白いな、次読んでみたいなと思ってもらえるものを狙いたい。専門の方には物足りないものにはなるかと思うが、あくまでも主役は市民で、市民にどれだけ買っていただけるかが大事だと考えている。
- ・今のお話だと見開きの章の立て方は、ちょっと工夫する必要がある。一つの古文書にスポットを当てるのではなく、興味を持っていただけるような章を立てて、そのトピックについてこう書いてある資料がある、地域ではこういう資料があって、このお寺がこうでみたい、これ面白いみたい、なふうに繋がっていくような章立を考えてみたい。
- ・執筆要項によるとページ数が1冊200ページ程度、2ページ1テーマで、章立ては10章で10項目という感じになってくると思う。資料編では分類的なテーマで農業とか交通とかとする場合、古代、中世、近代など編年でいく場合、近世は大体織豊期と幕末は割と編年でその間は難しいこともあって分類でいく場合、この

3つかと思う。

- ・イベントがかたまっているのは戦国、特に細川前後は編年でも沢山のイベントがある時期で、幕末もかなり近接した時期に多くのイベントがあると思う。織豊とか江戸のはじめぐらいまでと、明治維新、幕末維新时期みたいな章立てだと、間は項目別、テーマ別ぐらいの印象、例えば藩政とか町と村とか章を作っていく方がイメージはしやすい。
- ・舞鶴らしいというか田辺藩の特徴は、牧野の藩政だと思うので、京極までは編年で進めるのがいいと前の市史の章立てを見ながら思っていた。
- ・学校教育を意識されるのであれば、丹後にいたときは割と校区の歴史を話してほしいとの要望が多かった。地域ごととか小学校区単位ぐらいで分けるのも一つの方法か。
- ・織豊期というか細川の時代、それから幕末維新はある程度固めて、その間を分野ごとに分けていくのが一番作りやすいと思う。また、資料編か城下町に入れるのかある程度議論をしておく必要がある。
- ・地域的な分け方も非常に大事だと思うが、古代から現代まで含めて全て地域のタグをつけておけば、ウェブ上で小学校区にすぐまとめることができる。江戸時代について勉強する時も、食べ物や災害などテーマに直結できるようにつなげれば学校でも使いやすくなる。
- ・最初の細川期20年間ぐらいと、最後のペリーが来てからの幕末の動乱辺りは編年でいくということで、決定させていただく。
- ・学区別だとすごく学校で使いやすいと思うが、資料的には難しい。中世以前では、資料がなくもっと難しくなってくる。分野別はオーソドックスかもしれないが、地域的な偏在をできるだけ資料を選ぶ中で解消していく方向でどうか。
- ・何か索引みたいなもので、その校区ごとにこう出てくるみたいなことができれば、学校の先生も使いやすくなる。
- ・学校で使えるような何か工夫を、インターネットで地域別にタグをつけるとか、学校で使うための手引きみたいなものを一緒に考えながら作っていただけるとよりよい。
- ・校區別は、まるまる舞鶴でも既に実現しており、ウェブ上で簡単にでき、本の中でも索引などの工夫ができる。学校では今かなりICTタブレットを使う授業が増えてきている。近世以降、近代、文化遺産編でも活用の仕方はいろいろある。
- ・舞鶴地方史研究会のこの20年30年でどんな発表があったか思い出していた。一つは廻船、水上交通で大きな柱かなと思う。それから真名井の清水、要するに御水道。それから一揆とか村方騒動、産物とか、年中行事も一つの大きなまとまりと思う。そして検地、慶長検地ですが何も触れないのは不自然。章立てにもよるが、土目録とかその村方がどうなっていたか。八大庄屋組とか村の行政みたいなこと、近世の寺院の創立、在方寺院の創立、それから舞鶴で多いのは山論とか海論も大きなテーマになってくると思う。それから裁判資料を何とか使う手がないかと思っている。歴彩館と綾部の資料館にあり内容的には非常に面白い。あと陸上交通の話としては、西国巡礼略打道中記も取り上げたい。城と城下町とは別に、在方を中心に思っていることを挙げた。
- ・大体テーマとしては出たと思う。他にあるとすれば、文化とか、情動的な面、心学とか出版俳句というものもある。交通という形では陸上、海上交通を入れていくなど、一度出してもらいまとめてはどうか。

- ・城と城下町で取り上げるべきかと思っていたテーマは、幽斎の話など藩主のこと、牧野とか京極がどういう人なのか、お城の城郭、石垣とか、城郭の縄張りとかは当然入れるべき内容、先ほど水道施設をあげたが城郭に入るのか、城下町という朝代の祭礼は入れる必要がある、千葉大の菅原先生がやってこられた城下町の行政、吉原も最近ずいぶん注目されている。あとは野田笛浦とか新宮涼庭みたいな有名な人、心学の話が出たが明倫館とか教育も入ってくると思う。あと交通とか生業についてとか上段に振りかぶった章立ては基本だが、ちょっとクスッと笑えるようなエピソードがあっても面白い。
- ・いろんな人に広く読んでいただくということで考えれば、子供っぽいかもしれないが、例えば江戸時代の主人公3人ぐらいを作って、藩の役人1人、町の名主とか町の人1人、村で普段百姓をしている人1人、3人ぐらいおいて、その人が例えば普段お金はどう使っているかお金のトピックみたいな、買い物をするときにはどうしているのか、税金はどうやって払っているのか、3人ぐらい小さな主人公を置いて、その人の日常生活みたいな感じで章立てが工夫できると面白いと思う。
- ・面白いと思う。一番しやすいのは多分近世だと思う、近世は自由にできそう。
- ・細川の時代と幕末というのは編年として、その間は比較的自由が利くっていうようなところもある。他の時代には多分できない自由さがここにある。それを何か生かせる方法をもう少し考えてみてもいい。多分細川だけでも20ぐらいは行きそう。幕末も15や20ぐらいはありそう。初めと終わりは編年で、真ん中は比較的自由にというようなおおよその共通認識として、その辺りはもう少し意見を出し合えればと思う。
- ・自由に行けるのが資料編のいいところで、城と城下町はもう叙述になって一つのまとまったものであまり自由が利かない。コラムの寄せ集めという言い方が悪いが、どんなふうにも展開できるのが面白いところで、その強みを最大限生かすような工夫ができればいい。
- ・資料編という言い方も考えてはどうか。資料編とはちょっとニュアンスが違う部分もあるような気がする。ガチガチの資料ではなくて、いろいろな方に読んでいただけるようなものですよというのが何かわかるような表題なり、何かがあってもいいのかなと思う。
- ・他の部会の資料編のこともあり、近世史では考える余地があるということは、またお話をさしてもらおうかと思う。
- ・最初は細川、慶長検地になると京極になるが、いわゆる近世の基盤を作ったという部分で一緒にしていく。とにかく最初と最後は編年でやって、その間の部分の章立てについては、2回目の会議をできるだけ早く持つことにして、それまでの間に委員間でメールなどでやり取りをしながら、ある程度の形を相談させてもらい、2回目を迎える感じで進めさせていいただく。
- ・エクセルの表を作ってそこに各テーマを入れていき、もしわかれば執筆者の方とその枚数をいれれば大体目次ができる。
- ・この意見集約を東副部会長にお願いしたい。

◎廣瀬部会長は、城と城下町グループのメンバーについて、今のところ埋文センターの森島さんをお願いをしているが、城と城下町と資料編は両睨みでやっていく必要もあり、東委員、吉野委員、稲穂委員にも城と城下町グループに入ってもらっていただくようお願いされ、廣瀬部会長も含め部会委員4人は、城と城下町グループ

のメンバーになることを了承した。

(5) その他①執筆要項について②報酬等取扱基準について

〔事務局より、資料3・新修・舞鶴市史執筆要項、資料4・舞鶴市史編さんに係る報酬等取扱基準について説明。〕

- ・元号の表記で、元年を表の時には1にするというところ、1年という言い方は基本的にはないと思う。
- 事務局／元年については表中においても、「元年」に修正する。
- ・城と城下町の調査は来年から始まるが、来年の予算は11月ぐらいに提出と聞いており、来年度調査のイメージを今持っておくべきではないか。
- ・調査について、予算のこともあるので、例えばどれぐらいの日数とか、ご検討のものがあのかどうか、あるいはこちらの方から事務局の方にお示しした方がいいのか。
- 事務局／来年度予算措置をする必要がある部会、そうでない部会があるが、来年度に予算措置する必要がある場合については、どれぐらいの調査料が必要なのか、日数や分量などを各委員さんからおおよそいただきたい。次回会議でその機会を持たせてもらいたい。

(5) その他③その他

- ・織田信長が細川に出した新しい書状が見つかったというニュースがあった。幽斎公と舞鶴の企画で稲葉先生にお世話になっており、稲葉先生に臨時委員などで関わっていただいてはどうか。
- ・稲葉先生には、少なくとも執筆者をお願いできたらと思う。
- ・執筆が難しければコラムでも、永青文庫は研究が進展していると聞いているので、前回の幽斎公と舞鶴以降の知見があるかもしれない。本文なのかコラム的なものか何か関わっていただけるとよい。
- ・資料調査について、昨年木船家文書の9千点のうち2千点分の目録を作成したが、市から依頼を受け引き続き目録を出していく予定である。各委員から希望などがあれば、今後部会とも連携していきたい。
- ・現在行う資料調査等の状況について、編さん事務局の一員として週3日勤務し、舞鶴にある古文書の調査整理、ボランティアの指導をしている。木船家文書の調査は一応終わり、それ以降は寄贈いただいた真下先生の資料の中で、倉谷の大庄屋であった亀井武左衛門の古文書を調査しているところ。また、桂林寺文書は1回目録をとっているが整理し直し、牧野家文書も整理をし直しているところ。綾部の裁判資料は、今後借用し調査を進める予定。
- ・府の文化財指定も視野に、今後三浜の徳永家文書の詳細調査を実施したいと考えている。

5 今後の予定

- ・近世部会第2回会議と城と城下町グループ第1回会議を兼ね、11月9日10時30分から開催する。

以上